

# 七月例会

2025. 7. 16

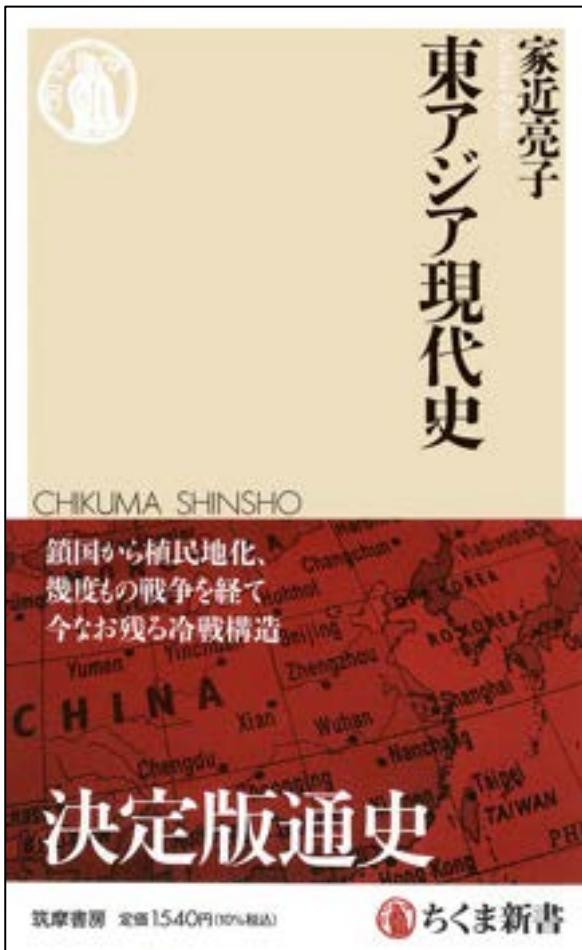
日時 令和七年七月十六日(水)

講師 テーマ 東アジア現代史

敬愛大学 国際学部 客員教授

家近亮子氏

■ 略歴  
慶應義塾大学文学部東洋史学科・慶應義塾大学法学部政治学科卒業。  
慶應義塾大学法学研究科政治学専攻博士課程修了、博士(法学)。  
文部科学省教科用図書検定調査審議会委員などを経て現職。著書に『蒋介石と南京国民政府 - 中国国民党の権力浸透に関する分析』(慶應義塾大学出版会、2002年)、『日中関係の基本構造 - 2つの問題点・9つの決定事項』(晃洋書房、2003年)、『蒋介石の外交戦略と日中戦争』(岩波書店、2012年、第8回樺山純三賞受賞)など多数。



東アジア現代史, 筑摩書房 (2025/1/10)



現代東アジアの政治と社会, NHK出版; 新訂版(2020/2/1)

2025. 8. 6

# 八月例会

日 時 令和七年八月六日(水)

テ イ マ

文化人類学、ビジネスに活用  
「数字に出ない『文脈』」知る

講 師

大川内直子氏  
アイデアファンド代表取締役、国際大学GLOCOM主任研究員

## ■ 略歴

東京大学教養学部卒。同大学大学院より修士号取得。専門分野は文化人類学、科学技術社会論。学術活動と並行して、ベンチャー企業の立ち上げ・運営や、米大手IT企業をクライアントとしたマーケットリサーチなどに携わる。大学院修了後、みずほ銀行入行。2018年、株式会社アイデアファンドを設立、代表取締役に就任。国際大学グローバル・コミュニケーション・センター(GLOCOM)主任研究員、昭和池田記念財団顧問。著書に『アイデア資本主義 文化人類学者が読み解く資本主義のフロンティア』(実業之日本社)。



大川内直子氏



今を読み解く：文化人類学、ビジネスに活用、数字に出ない  
「文脈」知る、日本経済新聞 (2025/5/10)



アイデア資本主義 文化人類学者が読み解く資本  
主義のフロンティア、実業之日本社 (2021/9/2)

# 九月例会

2025. 9. 17

日 時 令和七年九月十七日(水)

講 師 帝国と観光——「満洲」ツーリズムの近代

高 媛 氏 駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部教授

## ■ 略歴

媛氏  
1972年、中国北京市生まれ。1994年、吉林大学日本語学部卒業。1995年に来日。2003年、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学。2005年、博士号取得(社会情報学、東京大学)。現在、駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部教授。2011年4~9月、ハーバード大学ライシャワー日本研究所客員研究员。2020年4月~2021年3月、東京大学大学院情報学環・学際情報学府客員教授。専門は、歴史社会学・観光社会学。  
单著『帝国と観光——「満洲」ツーリズムの近代』。共著『帝国日本の観光——政策・鉄道・外地』(日本経済評論社、2022)で第16回日本観光研究学会 学会賞・観光著作賞(学術)。

## 帝国と観光

「満洲」ツーリズムの近代



岩波書店

帝国と観光——「満洲」ツーリズムの近代, 岩波書店 (2025/3/21)

## 帝国日本の観光

政策・鉄道・外地

千住一・老川慶喜 著



帝国日本の拡大はいかなる観光を生み出し、  
観光はいかに帝国日本を支えたのか。

内地、台湾、朝鮮、満洲、青島の  
観光開発、誘致事業、メディア表象を  
史的観点からひろく検討。

日本経済評論社 定価(本体 4900円+税)

帝国日本の観光——政策・鉄道・外地, 日本経済評論社 (2022/3/1)

十月例会

田時  
令和七年十月十七日(金)  
テーマ  
生成AI主導イノベーション  
講師  
大阪大学 経済学研究科 准教授

生成AI主導イノベーションの展望  
大阪大学 経済学研究科 准教授  
高東也 氏



東也  
氏

2014年ワシントン大学セントルイスにて博士号を取得。2014年よりアーカンソー大学経済学部の助教授、同大学の准教授を経て、2022年12月より現職。その他、大阪大学社会経済研究所招聘研究員、慶應義塾大学経済学研究科招聘教員を歴任。専門はマクロ経済学、技術とスキルの代替性、経済格差、機械学習を用いたマクロ経済分析など。国際的な学術誌に多数の論文を発表。



## 経済教室「真に価値あるスキル AIの正体 見抜く力を」 日経新聞(2025/5/9)

略歴

n, D., Santaeulàlia-Llopis, R., & Zheng, Y. (2020). *Labor Share Decline and Intellectual Property Products Capital*. *Econometrica*, 88(6), 2609–2628.

2025. 11. 12

# 11月例会

講師 テーマ 時間

川越敏司氏 公立はこだて未来大学 複雑系科学科 教授 行動経済学の死  
令和七年十一月十一日(水)



敏司氏

## ■ 略歴

大阪市立大学大学院経済学研究科前期博士課程修了、博士(経済学)。埼玉大学助手、函館圏公立大学広域連合事務局を経て、公立はこだて未来大学システム情報科学部に講師として着任後、助教授、准教授を経て、2013年より同大学教授、現在に至る。現在、行動経済学会会長を務めるほか、同学会で編集長(2020–2023年)、副会長(2021–2023年)を歴任。専門分野はゲーム理論・実験経済学。著書に『行動経済学の真実』(集英社新書)、『実験経済学』(東京大学出版会)など多数。



行動経済学の死: 再現性危機と経済学のゆくえ,  
早川書房 (2025/4/23)



行動経済学の真実, 集英社 (2024/9/17)

# 十二月例会

2025. 12. 17

日 時  
2025年12月17日(水)

講 師  
山田 礼子 氏

大 学 授 業 の 国 際 比 較 ・ 「 対 面 」 へ の 回 帰 、 日 本 突 出

同 志 社 大 学 社 会 学 部 教 授

山田 礼子 氏

## STEM高等教育と グローバル・コンピテンス

——人文・社会との比較も視野に入れた国際比較

山田礼子 著



STEM高等教育とグローバル・コンピテンス  
東信堂 (2022/11/10)

## ■ 略歴

山田  
礼子  
氏

1978年同志社大学文学部社会学科卒業。1991年カリフォルニア大学ロサンゼルス校教育学大学院博士課程修了。同大学Ph.D.。プール学院大学国際文化学部助教授等を経て現職。専門分野はアメリカの高等教育、初年次教育。『21世紀型リベラルアーツと大学・社会の対話』(東信堂、2024)、『STEM高等教育とグローバル・コンピテンス』(東信堂、2022)、『2040年 大学教育の展望 - 21世紀型学習成果をベースに』(東信堂、2019)など著書多数。

「対面」への回帰、日本突出

大学授業の国際比較

コロナ期の蓄積生かせ／学習時間は増加

オンライン授業の動向

機会損失なきか

大学授業の国際比較 「対面」への回帰、日本突出,  
日本経済新聞 (2025/07/07)

# 一月例会

2026. 1. 14

日 時  
テー マ

令和八年一月十四日(水)

グローバルサウスが問う『空間軸』と『時間軸』

・地政学的関心を超えて

講 師

矢野修一氏  
高崎経済大学 経済学部 教授

## ■ 略歴

矢野修一氏

1986年、京都大学経済学部卒業、1991年、京都大学大学院経済学研究科博士課程退学。京都大学博士(経済学)。1991年、高崎経済大学専任講師、現在、同教授。専門は世界経済論、開発経済論、経済思想。主な業績として、共著『アジア経済論』ミネルヴァ書房、2022年、同『地方消滅からの脱却』日本経済評論社、2025年、翻訳としてA.O.ハーシュマン『離脱・発言・忠誠』ミネルヴァ書房、2005年、I.ゴールデン『未来救済宣言』白水社、2022年などがある。

## グローバルサウス入門

「南」の論理で読み解く多極世界

西谷修・工藤律子  
矢野修一・所康弘 [著]



文眞堂

グローバルサウス入門: 「南」の論理で読み解く多極世界, 文眞堂 (2025/9/24)

## 可能性の政治経済学

ハーシュマン研究序説

矢野修一 著



法政大学出版局

可能性の政治経済学: ハーシュマン研究序説,  
法政大学出版局 (2004/10/1)

# 二月例会

日 時 令和八年二月十八日(水)  
 テーマ 生成AIを活用したR&D戦略策定  
 講師 大杉 史織 氏

株式会社リコー 技術統括部 技術経営センター  
 技術調査室 技術調査G

## 大杉 史織 氏

### ■ 略歴

東北大学工学部卒業。同大学院修士了。2013年、株式会社リコー入社。光学分野の研究・開発を経て、現所属にて新技術探索と技術動向分析の方法論・調査プロセスをR&D領域へ展開。技術経営視点で生成AI活用手法・ツール化を主導し、組織方針・R&D戦略の意思決定を支援。専門はオプトメカトロニクスおよびテクノロジーアンテリジェンス(技術情報調査)である。

2.4.1.9

R&D部門における生成AIを活用した高速・網羅的SWOT／3C分析による戦略策定プロセスの提案

大杉史織、山田勝永、伊藤達哉、平野由希子、森和人、加藤祐、赤平有也(株式会社リコー)  
[ahiro.saitoh@rkc.ricoh.com](mailto:ahiro.saitoh@rkc.ricoh.com)

#### 1.はじめに

近年、製造業をはじめ多様な産業分野において、デジタル化と社会構造の急速な変遷に対応した事業変革が求められています。特にR&D部門では、マーケットインアーニングなどの導入が定着し、市場動向や競争者への洞察を通じた技術戦略策定の必要性が一層高まっています。マーケットインは、市場・顧客から得られた動向、データ、課題といった知識を組み込んで、自前のデータや事業資源の方向性を行う考え方であり、R&Dに向けた探索と進捗の監視点を作ります。

しかし、従来の戦略策定においては、時間・人労働により十分な調査、分析を行なうことができず、既存の情報源に依拠して判断を下す。結果として技術戦略の不足、シナリオ観察の不十分性、意思決定の幅の狭さなど、やはり問題があつた。これらの問題が解決に向かう。本稿ではステップデーター(Stage Gate)モデルによる技術戦略の要件に着目。現段階では、既存の手法によらず、各々でデーターで調査・分析を進め、データで確認・印可、優先度付けを行なう手順みであります。データの確認ごとに参加を進めるべき当事者を決め、より適したデーター統合手法を手当する。ヨリオサハ利用範囲でデーター統合を確実に収集し、利便性でどれか可能な限りは他の部門と連携と連携性が重要で、今、こうした要所は生成AIの特性和高い利便性を有する。今年度最初のR&D部門におけるデーターチャンネルの構築計画(以下略)は、図1である。

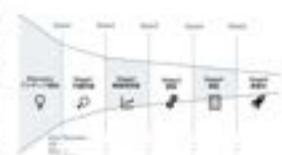
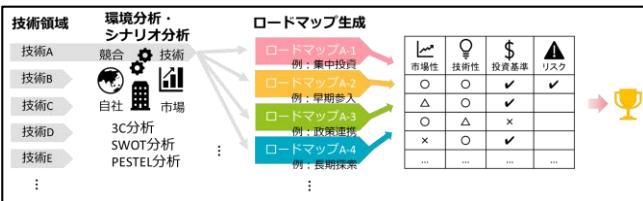


図1 データーチャンネルによる技術戦略策定手順

一般社団法人研究・イノベーション学会 第40回記念年次学術大会予稿集(2025年11月8-9日)



実施した手法

2.4.1.10

R&D部門からの情報収集出手法に関する先端AI活用手法

大杉史織、赤坂山、伊藤達哉、山野由希子、平野由希、加藤祐、赤平有也(株式会社リコー)  
[ahiro.saitoh@rkc.ricoh.com](mailto:ahiro.saitoh@rkc.ricoh.com)

2.4.1.23

特許情報分析による組織内外技術活用の可視化

大杉史織、赤坂山、伊藤達哉、山野由希子、平野由希、加藤祐、赤平有也(株式会社リコー)  
[ahiro.saitoh@rkc.ricoh.com](mailto:ahiro.saitoh@rkc.ricoh.com)

2.4.1.7

R&D部門におけるデーターチャンネルの構築および実行

大杉史織、赤坂山、伊藤達哉、山野由希子、平野由希、加藤祐、赤平有也(株式会社リコー)  
[ahiro.saitoh@rkc.ricoh.com](mailto:ahiro.saitoh@rkc.ricoh.com)

過去の関連研究発表(一般社団法人研究・イノベーション学会 第39回年次学術大会予稿集)